

# 安楽寺だより 第41号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話:03-3451-1509 FAX:03-3798-2238

発行者:藤澤 克己(安楽寺住職) ホームページ <http://www.anraku-ji.org/>

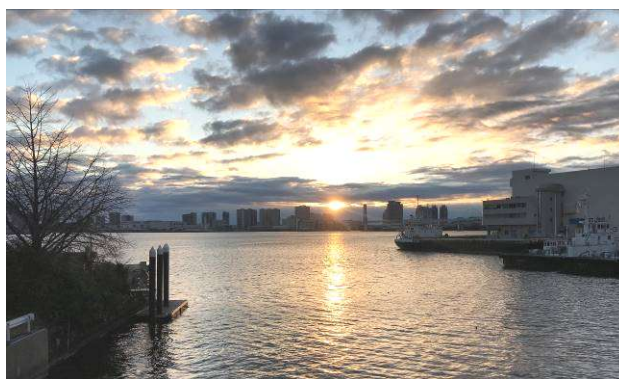
(安楽寺だよりは1月・4月・7月・10月に発行します)

## 新しい時代の到来を感じませんか?

令和になって初めての新年を迎えました。  
みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

初日の出を見に出掛けたところ、低くたれこめた雲の向こうから燦然と輝く太陽が顔を出してくれました。少しずつ雲に色を付け、濃淡のついた変化に富む空模様を見せてくれました。

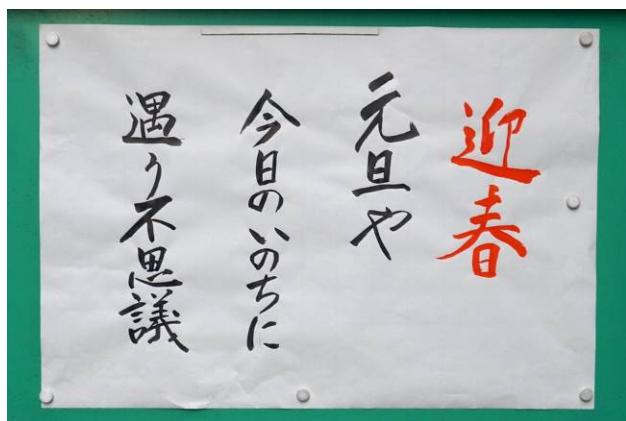
先行きの不安もありますが、時代の移り変わりを予感しました。



初日の出(芝浦・新日の出橋より)

東京オリンピック・パラリンピックを迎える今年、大会ビジョンに掲げられている**おもてなし・多様性と調和・未来への継承**というテーマが、新しい時代をより良くするための鍵になると思います。

歴史や伝統を重んじながら、新しいものや違った存在・価値観を受け容れ、お互いに認め合うことのできる世の中になることを願います。



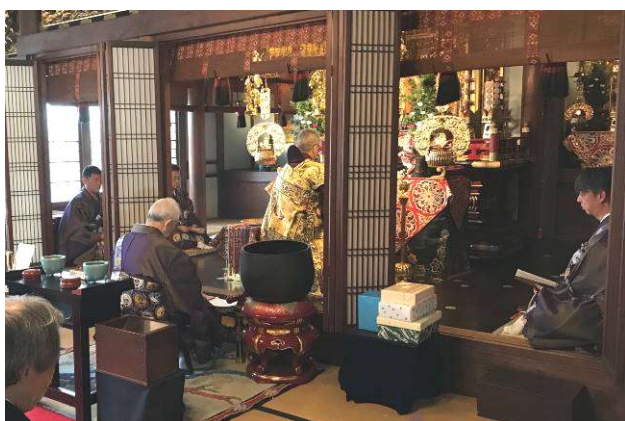
### 《あれこれ抄》

▼冬の「安楽寺だより」をお届けします▼第1号を発行したのが今からちょうど十年前です▼「読みましたよ」と声を掛けてくださるのが励みになって続けることができました、ありがとうございます▼「昨年」の世相を表す漢字に「令」が選ばれました▼元号が変わり、新しい時代に希望を感じたことの表れでしょう▼今年が喜びに満ちた一年になることを願います▼日本の人口減少が急激に進んでいるそうです▼ただ地球規模では人口増ですので、外国人の受け入れが今後増えていくのでしょう▼多様性を認め合う社会に変わっていく必要があるのだと思います▼おかげさまで寺の者はみな無事に新しい年を迎えることができました▼本年もどうぞ宜しく願います

ほうおんこう

## 安楽寺報恩講をお勤めしました

去る11月10日に、安楽寺「報恩講」をお勤めし多くの方にご参拝いただきました。親鸞聖人のご命日が11月28日(旧暦)であることにちなんで、浄土真宗の多くの寺院でこの時節に報恩講のお勤めをしています。法要では親鸞聖人の作られたお経「正信偈」<sup>しょうしんげ</sup>を賑々しく唱えました。



法要に続いて藤本真教氏(茨城・常教寺住職)のお話を聴聞しました。

「恩」という言葉の意味は知っていても、「当たり前」と考えてしまう自分がいて、なかなかご恩に感謝する機会が持てないとお話くださりました。仏さまの願いを聴く中で、ご恩に気づけるように育てられると示してくださいました。



秋の台風19号の影響で藤本氏のご自坊(お寺)の近くを流れる那珂川が氾濫したときの話を、身振り手振りで熱く語ってくれた姿が印象的でした。



### 平成31年・令和元年 総追悼法要の報告

去る12月22日(日)に、昨年一年間に亡くなった方々の「安楽寺総追悼法要」を合同で執り行いました。

事前にお預かりした故人へのメッセージを尊前に供え、法要の趣旨を仏さまに奉告する<sup>ひょうひやく</sup>表白の中で亡くなった方々のお名前をお一人ずつ読み上げ、お勤めでは「讚仏偈」<sup>さんぶつげ</sup>を丁寧にあげさせていただきました。

### 《季節の思い出》



春をまつ芽吹き(参道のアジサイ)



## 年回法要(法事)のご案内

年回法要は亡き人のご命日を縁として、お勤めする「仏法行事」です。故人を偲び、生きている私たちが自らのいのちに思いを巡らせる貴重な機縁です。

ご法事をきっかけに、家族や親戚の方が集まってくだされば、仏さま(故人)もきっとお喜びになることでしょう。

どうぞみなさまでお参りください。



2020(令和2)年 年回表										
五十回忌	三十七回忌	三十三回忌	二十七回忌	二十三回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌	年回忌
昭和46年	昭和59年	昭和63年	平成6年	平成10年	平成16年	平成20年	平成26年	平成30年	令和元年 平成31年	亡くなられた年

門信徒のみなさまには2カ月前を目安にお知らせするようにしていますが、今年が年回法要に当たる方は是非ご予約に入れておいてください。

### 住職コラム

## 「ついに怨みのやむことがない？」

年明け早々、アメリカによるイラン司令官殺害のニュースが報じられ暗澹たる気分になりました。トランプ大統領は「大規模な攻撃を未然に防いだ」と主張し、イランの最高指導者ハメネイ師は「厳しい復讐」を宣言、緊迫した不安な情勢が続いています。政治・歴史の難しい問題ですから安易なことは言えませんが、「やられたらやり返す、凶式が続く限り、いつまで経っても平和が訪れることはないと思います。

実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みをすててこそ息む。これは永遠の真理である。

(岩波新書『ブッダの真理のことば』より)

この言葉は、お釈迦さまの教えを伝える古い経典『ダンマパダ』(法句経)の中に書かれています。現代の世界状況を思うとき、この言葉の意味することにしっかりと目を向けることが、非常に大切なことに思えてきます。



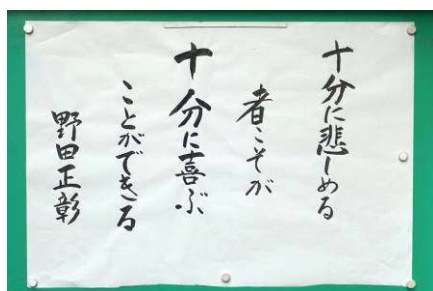
(岩波新書『ブッダのことば』表紙より)

スリランカのジャヤワルダナ蔵相(後に大統領)は、第二次世界大戦後、この言葉を引用して日本に対する一切の賠償請求権を放棄し大きな反響を呼んだそうです。政治の世界で実践された珍しい事例かもしれませんが、混迷した対立状況を打破する可能性を感じます。

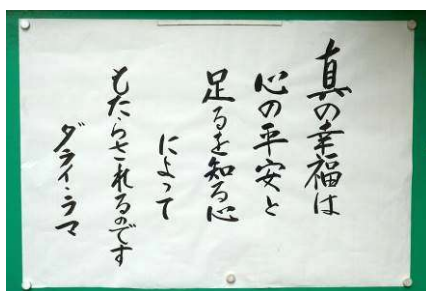
国レベルでなくとも私たちの身の回りで「怨みをすてる」智慧を見だし、行動を積み重ねていくことが、後代に対する私たちの責務に思えてなりません。

## 月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

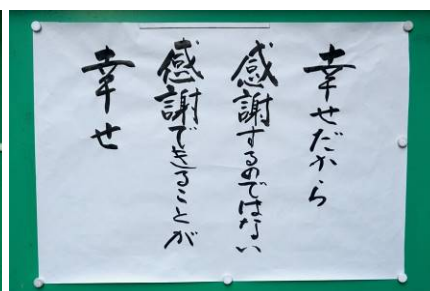
お寺の入り口の伝道掲示板に、その時々を言葉に掲げています。 (筆：前住職)



2019年11月



2019年12月



2020年1月



### 芝組研修会「歴史を通して知る浄土真宗」のご案内

この度、<sup>しばそ</sup>芝組\*14ヶ寺が合同で研修会を開催することになりました。「歴史を通して知る浄土真宗」と題して、半年に一度、全6回の開催予定です。どなたでも参加できますので、関心のある方はぜひご参加ください。(その次の開催は9月上旬の予定です)

注\*) 芝組とは、芝地区を中心とする浄土真宗本願寺派の14ヶ寺のグループで、安楽寺も属しています。



西本願寺(京都)の御影堂と阿弥陀堂



東本願寺(京都)の阿弥陀堂と御影堂

日時：2020年3月7日(土) 午後5時～6時30分

場所：光明寺 本堂 (港区虎ノ門3-25-1・神谷町駅から徒歩1分)

講題：東西本願寺は何故分かれたのか?

講師：岡村 喜史 氏 (本願寺史料研究所研究員)

受講費：500円 (資料代として)

一緒に学び  
ましょう!



※当日参加も可能ですが、資料準備の都合上、事前に住職までご一報いただくと助かります

「定例法話会」の今後の予定 (毎月第3日曜日 午後2時～)

伝道掲示板の言葉をもとにお話させていただきます。いつでもご参加ください。

1月19日(日) 2月16日(日) 3月15日(日)